

開講科目名 / Course	文化人類学入門	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 後期	
開講区分 / semester offered	後期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	足立 恵理	
担当教員名 / Instructor	足立 恵理	
必修・選択 / compulsory subject	選択	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	文化人類学は、様々な文化の比較を通して人間理解に迫る学問だが、同時に文化の概念や枠組み、異文化理解の対象や方法そのものを問い直す作業も含まれる。 この授業では異なる文化を持つ患者にとっての病の意味や背景に目を向けることができるよう、医療と文化をキーワードに文化人類学と医療人類学の基本的な視点を学ぶ。また、在日外国人と医療の問題を扱い、学んだ視点や方法論を使って多文化共生医療の現状分析と看護の現場における改善について具体的に検討する。	
到達目標	1. 自他の複雑で多様な文化的背景を捉えなおす視点を獲得する。 2. 学んだ視点や方法論を使い、多文化共生医療の在り方を具体的に計画、実施、評価改善する。	
DPとの対応	3.心豊かな人間性と倫理観	
授業計画	01. オリエンテーション 02. グローバリゼーションの中の民族、言語、文化 03. 異なる文化の捉え方1 - 近代以降の異文化接触の課題 04. 異なる文化の捉え方2 - 課題を乗り越える様々な思想的試み 05. 文化と医療1 - 医療化・脱医療化とその課題 06. 文化と医療2 - 身体観、病気観、死生観 07. 文化と医療3 - 医療システムの多様性と特徴 08. 多文化間協働の可能性を探る1 - 方法論とツールの検討 09. 多文化間協働の可能性を探る2 - 応用 10. 多文化間協働の可能性を探る3 - 応用とまとめ	
その他の授業の工夫	学んだ視点を応用する力をつけるために、演習やグループワークを適宜取り入れる。	
時間外学修	毎回学ぶ視点や方法論が、次の授業につながるため、授業内容のポイントを自分なりに整理し、配布資料や紹介された事例を読んでおくこと。	
評価方法と評価割合	出席(20%)、グループワークや演習への貢献(30%)、レポート(50%)	
テキスト	授業中にプリントを配布する。	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		